



公益財団法人宮城県結核予防会 広報誌

よぼう

複十字健診センター
～健診&クリニック～



厚生労働省では毎年9月24日～30日を「結核・呼吸器感染症予防週間」と定め、結核と呼吸器感染症に関する正しい知識の普及啓発を図ることとしています。宮城県結核予防会も主催者の一員として活動し、世界共通の結核予防のシンボルマーク・複十字の赤色にライトアップし、結核予防の普及啓発につなげます。

information

連載 [第2回] **受けていますか？ 特定保健指導** ～特定保健指導を活用しよう～

- 第100回日本結核・非結核性抗酸菌症学会学術講演会演題発表
- 医師エッセイ 採血に伴う合併症への対応
- 各種お知らせ

発行 公益財団法人 宮城県結核予防会

複十字健診センター ～健診&クリニック～
〒989-3203 仙台市青葉区中山吉成2-3-1
TEL.022-719-5161 FAX.022-719-5166

健康相談所 興生館 ～健診&クリニック～
〒980-0004 仙台市青葉区宮町1-1-5
TEL.022-221-4461 FAX.022-221-4465



連載
第2回

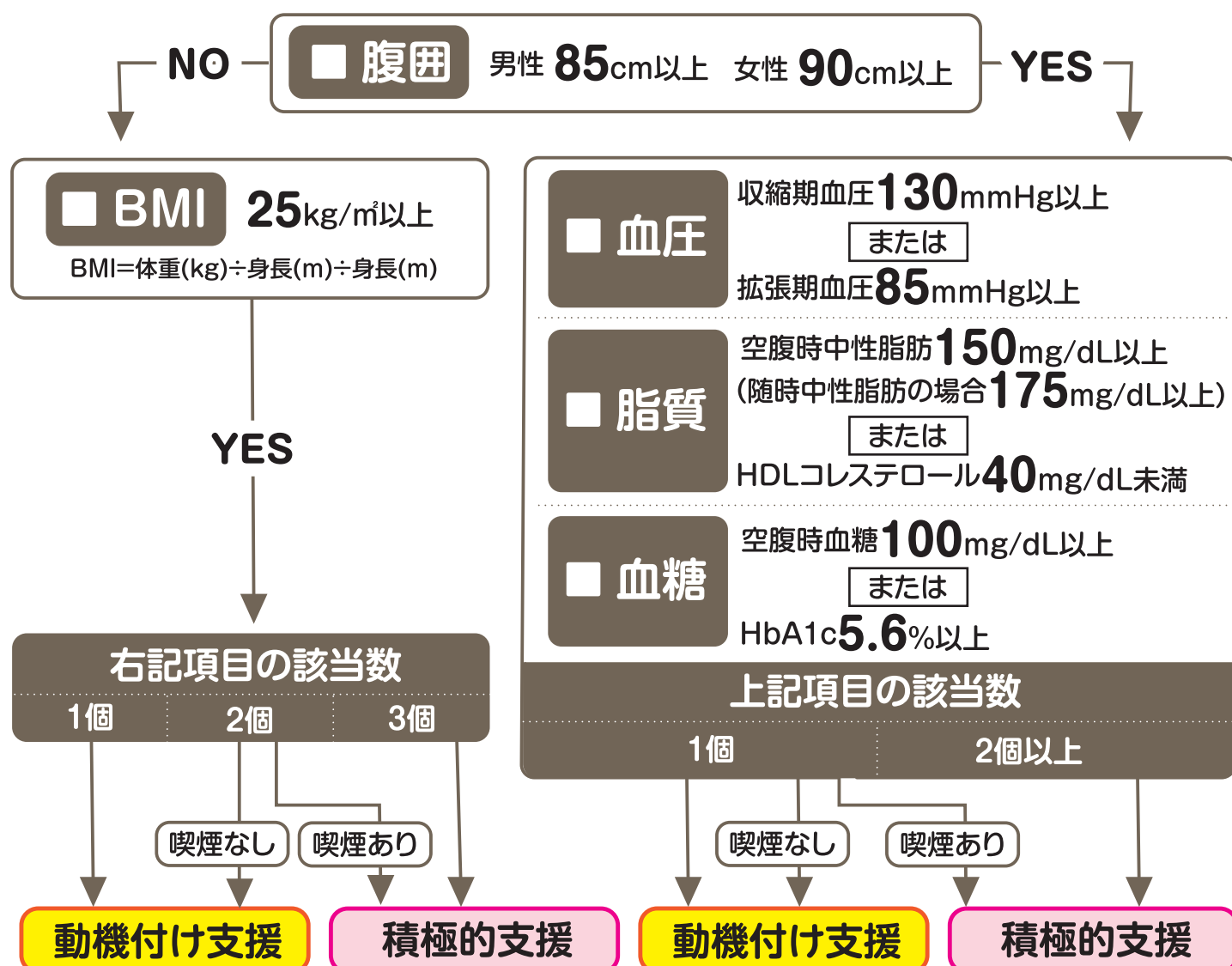
受けていますか？ 特定保健指導 ～特定保健指導を活用しよう～

01 特定保健指導ってなあに？

メタリックシンドロームに着目した特定健康診査(以下、特定健診)の結果、生活習慣病のリスクが高いと判定された方を対象に、保健師や管理栄養士が生活習慣の改善をサポートします。生活習慣病のリスク数に応じて、「動機付け支援」と「積極的支援」の2種類の支援コースがあります。



02 あなたは特定保健指導に該当している？ 特定健診結果をチェック！



※65～74歳の場合、積極的支援の条件に該当する場合でも「動機付け支援」となります。

※血圧・コレステロールや中性脂肪・血糖を下げる薬を服用している場合は、特定保健指導「非該当」となります。

03

特定保健指導に該当した“今”こそ 生活習慣を振り返るチャンス！

支援コース別特定保健指導の流れ

動機付け支援

積極的支援



初回支援 (面談) 特定健診当日に実施

特定健診当日の腹囲・体重・血圧・喫煙等の状況をもとに生活習慣を振り返り、保健師・管理栄養士と一緒に食事・運動・喫煙・休養等についてライフスタイルに合わせた目標や行動計画を立てます。

参加者特典
腹囲測定用メジャー
&
専用パンフレット



継続支援
(電話)

体重・腹囲、目標や行動計画の実施状況を確認します

継続支援
(電話)



初回支援から3か月後以降

最終支援 (電話)

体重・腹囲、目標や行動計画の達成状況を確認し、支援終了後も生活改善に取り組める方法を一緒に考えます。



最終支援 (面談)

当施設に来所して頂き、体重・腹囲を測定します。目標や計画の達成状況を確認し、支援終了後も生活改善に取り組める方法を一緒に考えます。



次の健康診断に向けて継続して生活改善に取り組む

※継続・最終支援の支援内容はご都合に合わせて変更可能です。
※費用については、ご加入頂いている健康保険組合にご確認ください。

生活習慣病の予防・改善に 特定保健指導を活用しましょう！



日本の結核罹患率は、2021年に9.2と結核低まん延国の水準(罹患率10.0以下)を達成し、2023年も宮城県においても5.2と低水準となっています。低まん延国において、結核接触者健診は結核の感染を早そこで本研究では、当法人で実施した結核接触者健診蓄積データを利用し、QFT検査について精度評価

8.1と低まん延国水準を維持しています。期に発見し、感染の広がりを抑えるうえで重要な役割を担っています。を行いました。

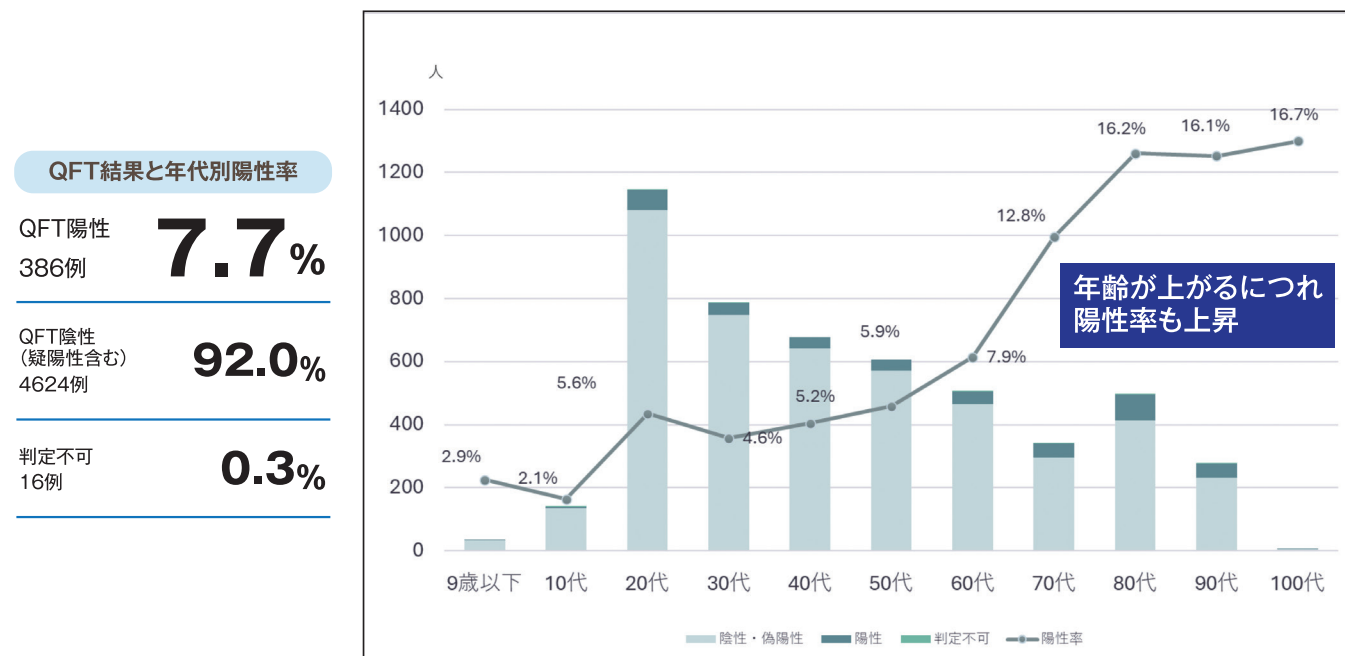


演題

結核接触者健診QFT検査における感度・特異度の検討

結核低まん延国において、結核の感染を早期に発見し治療に導くことが重要であり、質の高い結核接触者健診がもとめられています。そこで、2017年4月から2023年3月までに当法人で受託した結核接触者健診においてQFT検査を実施した5026例について感度・特異度を検証しました。

- 感度とは……病気になる人を『病気があると検出(陽性)』する力
- 特異度とは……病気がない人を『病気がないと検出(陰性)』する力



5026例のうち、肺結核と診断されたものは全部で16例そのうち14例がQFT検査陽性、2例がQFT検査陰性でした。

	肺結核(真の陽性)	肺結核以外(陰性)
QFT陽性	14	372
QFT陰性	2	4622
合計	16	4994
	感度87.5%(14/16)	特異度92.6%(4622/4994)



まとめ

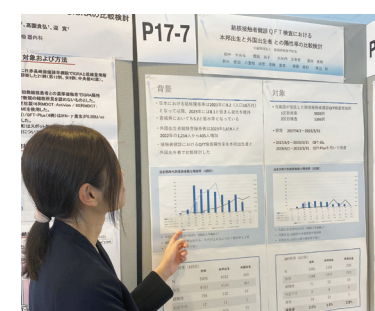
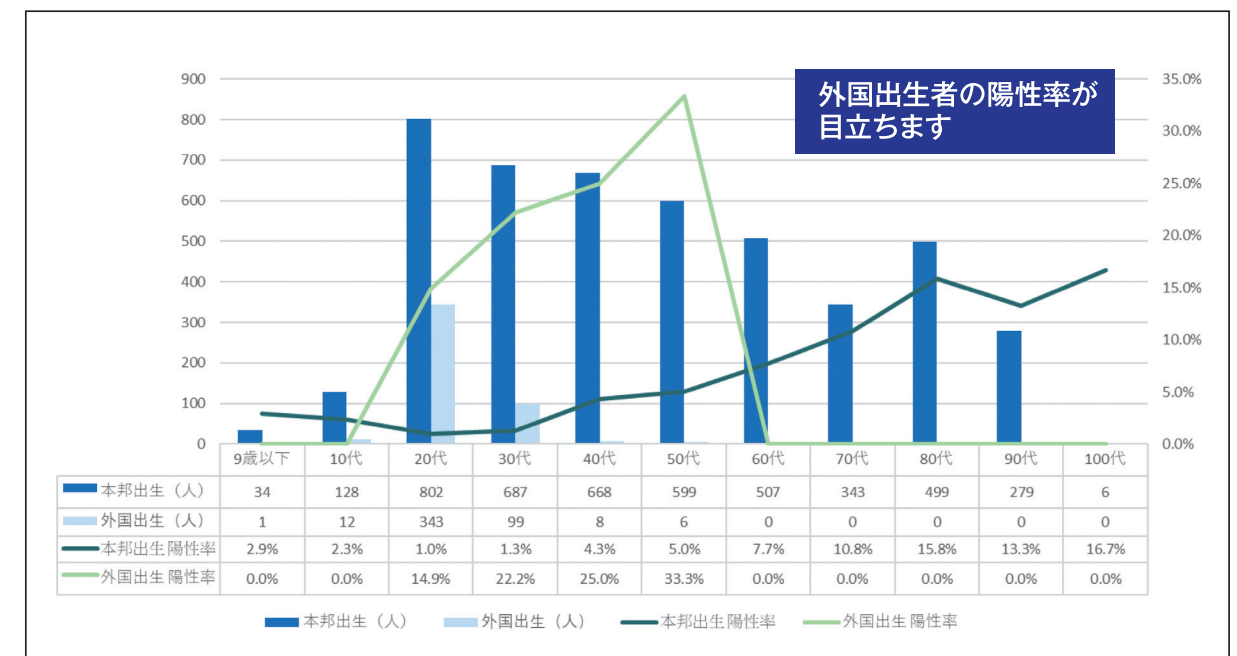
肺結核の発病を真の陽性、それ以外を陰性とする接触者健診におけるQFT検査の精度は感度87.5%、特異度92.6%と良好な結果が得られた。

演題

結核接触者健診QFT検査における本邦出生と外国出生者との陽性率の比較検討

近年外国出生者の結核登録患者数は増加傾向にあり、接触者健診の対象となる外国出生者も多いことから、当法人が受託した結核接触者健診において、2017年4月から2023年3月までにQFT検査を実施した5026例(うち2回検査実施は1395例)について本邦出生者と外国出生者との陽性率の比較検討を行いました。

- 接触者健診とは……感染症法に基づき、結核患者さんと接触した可能性がある人を対象に、結核に感染しているかどうか、結核発病の早期発見を目的に行われる健康診断です。保健所が感染状況や接触状況から対象者を決定し、インターフェロング遊離試験(IGRA)などの血液検査、胸部X線検査などが行われます。
- QFT(クオンティフェロン)検査とは……インターフェロング遊離試験(IGRA)の1つで、結核菌感染の有無を調べるための血液検査です。



1回目	本邦出生	6.0%	P値<0.00001
	外国出生	16.4%	
2回目	本邦出生	1.8%	P値=0.30637
	外国出生	2.9%	

まとめ

1回目検査時陽性率に本邦出生者と外国出生者で有意差が認められた。接触者健診対象者という特殊性はあるものの高まん延国出生者が多いことから、既感染の陽性者が多く含まれるのではないかと考えられる。

第1回 採血に伴う合併症への対応

健康相談所 興生館
～健診&クリニック～
所長 八重柏 政宏

どんなに注意深く行っても医療行為に合併症は避けられません。たとえそれが日常的に行われている血圧測定や採血などでも合併症は起こりえます。合併症とは、医療行為(診断・治療・処置など)に関連して発生する予期される不都合なことです。合併症は予期可能なので、現在では様々なマニュアル等で合併症が起こらないように工夫されています。

がん治療のように合併症が起こるのを覚悟して行われる医療行為があります。がんはどんどん進行し、患者様の命を危険なものとし、また簡単に治療できる病気ではありません。副作用が多い抗がん剤を使用しなんとか進行を食い止めようとします。白血球減少や食欲不振、脱毛などが起こることが知られていますが、やむを得ないと考えられています。このような薬の副作用も合併症です。合併症と似たような概念として医療過誤がありますが、両者は全く異なったものです。合併症は医療者が可能な限り起こるのを避けようとしても起こってしまった不都合なことです。医療過誤は医療者の過失によって引き起こされたことだからです。

宮城県結核予防会では「採血を受けられる方へのお願い」(右図)を作成しています。患者様・健診受診者様へ採血における注意事項をお伝えし、可能な限り合併症の予防に努めることを目的としています。「お願い」には様々な事前の注意が書かれています。まれにおこる採血時の合併症として

- 1) 止血困難・皮下血腫(青あざ)、
- 2) アレルギー
- 3) 血管迷走神経反応
- 4) 神経損傷

が上げられています。

1)-3)は早期に発症する合併症ですが、初期対応をきちんと行えば一過性で済む場合が多くほとんど後遺症を残すことはありません。

4)神経障害は非常にまれですが、痛みやしびれなど



が持続することがあり、採血スタッフが最も注意している合併症です。採血後の疼痛が続く場合は、神経障害が疑われますのでご連絡ください。専門的な検査・診断・治療を行うことの出来る専門医療機関をご紹介します。

宮城県結核予防会では、今後も合併症のない医療を目指して努力して行く所存です。

★ 採血を受けられる方へのお願い ★

公益財団法人 宮城県結核予防会健康相談所興生館 (R5年3月改訂)
「採血」は、病気の診断や病状の把握のために必要な医療行為です。
採血を「安全」で「間違いない」行うために次のことを確認させていただきます。
円滑な採血を行うため協力くださいますよう、よろしくお願いいたします。

ご本人確認 「採血取り違い防止」のため、ご自身の姓名を名乗っていただきます。

以下に該当する方は、事前にお申し出ください

- ◎採血時にご気分が悪くなったことのある方
- ◎消毒薬(アルコール)や手袋(ラテックスなど)にアレルギーをお持ちの方
- ◎止血時のテープにかぶれやすい方
- ◎血液透析中の方
- ◎乳房切除手術を受けた方
- ◎血液サラサラにする薬(ワーファリン・プラビックスなど)を服用中の方
- ◎その他採血に関して、ご希望・ご不安な点のある方

止血方法 採血後5～10分、圧迫止血が必要です。止血用包帯を使用させていただく場合もあります。採血後に血が止まらなくなったり、跡が青くなったりすることがあります。

再採血 血管の状態などにより十分な量が採取できない場合や採取した血液が検査に適さない状態である場合は、当日または後日に再採血をさせていただきます。その場合は、こちらからご連絡させていただきます。ご了承ください。

採血に伴う合併症について

「採血」は基本的には安全な手技で、合併症を起こすことは極めて少なく、軽症なものが多いとされています。しかし、ごく稀に次のようなことが起こる場合があります。これらの合併症が起きた際には最善の処置を行います。

止血困難・皮下血腫(青あざ)

採血後に血が止まらなくなったり、跡が青くなったりすることがあります。採血時に十分に圧迫して(押さえて)止血してください。

アレルギー

採血時の消毒薬やスタッフの手袋(ラテックスなど)でかゆみ、発疹をはじめとするアレルギー症状が出る場合があります。

神経損傷

非常に稀ですが、神経を損傷することがあります。採血後も手指へ広がる痛み・しびれなどが持続する場合があります。

血管迷走神経反応

採血時や採血前後に、神経が興奮し急激に血圧が下がることによって、めまい、気分不良、意識消失などを引き起こすことがあります。

※これらの症状が起きて診察を受ける場合にかかる医療費は通常の保険診療額となりますのでご了承ください

採血についてのお問合せ先
公益財団法人 宮城県結核予防会
健康相談所 興生館
電話 022-719-5161 (代) 看護科 内線205
022-221-4461 (代) 看護科 内線107

検診車が納車されました (みやぎ19号・みやぎ20号)

今回製作した検診車は、左右の巻き込み防止を想定した安全性の高い最新の車両です。車体の大きさを従来より小型化したことによって、狭小地での検診が可能となりました。みやぎ19号、20号のその他の特徴は以下のとおりです。

POINT 1 プライバシーに配慮した男女別表示の追加



電光掲示板で「男性撮影中」「女性撮影中」と表示し、撮影室から出入り口が確認可能なカメラを設置することで車内で男女が一緒にならないように整備しました。

POINT 3 多言語表示でどなたにもわかりやすく



複数言語(英・中国・韓国・ベトナム・インドネシア・タイ・北京・スペイン など)対応の説明表示機能搭載しました。

POINT 2 ゆるやかな階段でよりやさしい設計に



検診車へあがる階段をなだらかにし、高齢者にも受診しやすい環境を整備しました。

今後も県内各地で巡回検診を実施し、結核や肺がんの早期発見および予防を図り、健康維持に寄与して参ります。



イエローグリーンキャンペーンライトアップ

イエローグリーンは「受動喫煙をたくない・させたくない」という気持ちを表す色です。宮城県結核予防会では、5/31世界禁煙デー、5/31～6/6禁煙週間にライトアップの実施を通じ、受動喫煙防止や禁煙を呼びかける活動を推進しています。



複十字健診センター ～健診&クリニック～



健康相談所 興生館 ～健診&クリニック～

9/24～9/30は結核・呼吸器感染症予防週間です

結核・呼吸器感染症予防週間の一環として、結核や肺がん・COPDなどの胸部疾患に関する普及啓発のため、各種イベントを実施します。



当法人施設パネル展示

期 間 9月16日(火)～30日(火)

場 所 宮城県結核予防会
複十字健診センター～健診&クリニック～
健康相談所 興生館～健診&クリニック～



結核・呼吸器感染症予防パネル展

期 間 9月22日(月)～26日(金)

場 所 宮城県庁1階ロビー



結核・呼吸器感染症予防週間ライトアップ

期 間 9月24日(水)～9月30日(火)

場 所 宮城県結核予防会
複十字健診センター～健診&クリニック～

8/1～12/31結核をなくすための複十字シール運動にご協力をお願いします

「ケッカク?まだあるのですか?」そんな質問が出るほど結核は過去の病気と思われがちです。明治から昭和20年代までは結核を発病する方が多く、結核は「亡国病」と恐れられていましたが、予防や治療に取り組んだ結果、大きく減少しました。しかし、今でも日本では1年間に1万人以上が結核を発症しています。世界では対策の遅れや貧困から、総人口の約4分の1が感染しています。宮城県結核予防会では世界から結核をなくすために複十字シール運動に取り組んでいます。皆様の温かいご協力をお願い申し上げます。

2025年の複十字シール



シールをお使いいただくことで運動の輪が広がります。

皆さまのご協力が結核の予防・普及啓発につながっています

2024(令和6)年度 募金報告

全国の募金総額

4億463万6,647円

事業費(諸経費除く)

1億3,230万8,363円

宮城県の募金総額

793万5,191円

お預かりした募金は結核や肺がん・COPD(慢性閉塞性肺疾患)などの胸の病気の普及啓発、全国の結核予防団体の事業支援、開発途上国の結核対策支援、結核等の調査研究の活動に大切に活用させていただいています。

たくさんのご協力ありがとうございました。



国際協力

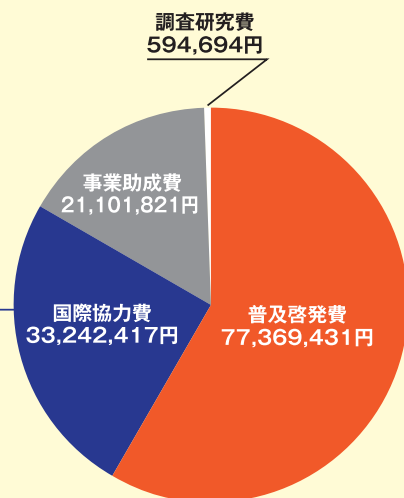
国内の活動で培った技術や経験を活かし、国際協力に取り組んでいます。



ボランティアの育成



医療従事者への技術指導



普及啓発

患者数が減少し、結核への関心が低下しているため普及啓発に重点を置いています。



教育広報資料の配布



健康イベントの開催



啓発資料の作成



広報誌の作成

健康診断から再検査・治療まで県民の皆様の健康づくりをトータルでサポートします 公益財団法人 宮城県結核予防会

複十字健診センター ～健診&クリニック～

〒989-3203 仙台市青葉区中山吉成2-3-1
TEL.022-719-5161 FAX.022-719-5166

健康相談所 興生館 ～健診&クリニック～

〒980-0004 仙台市青葉区宮町1-1-5
TEL.022-221-4461 FAX.022-221-4465

当法人の活動内容はHPよりご覧いただけます!

<https://www.jata-miyagi.org>

宮城県結核予防会



基本理念

「一人ひとりの健康を創り出すため最善を尽くします」

- 一、私たちは受診者の皆様の人権を尊重し職務を遂行します
- 一、私たちは知識の習得と技術の向上に取り組み健診の質を高めます
- 一、私たちは誠実で正確な健診と医療を目指します